

「千葉は日本のロケット研究発祥の地記念碑」 建立趣意書

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

日頃より、NPO 法人ちばサイエンスの会の活動にご理解ご協力をいただき、深く感謝申し上げます。

当会は、多くの市民が、気軽に科学に親しみながら、その面白さや美しさを発見できる活動を通じて、科学教育の普及、特に子どもたちの未来への夢の育成に寄与することを目的とし、2001年7月に発足し、科学工作会や自然観察会などの科学教育事業を実施しております。なかでも、「千葉はロケット発祥の地」を合言葉に、毎年7月、千葉大学を会場としてお借りし、模型ロケット製作と打上げ体験をする事業は、盛況で、毎年、数百名の親子が集い、ロケットへの興味関心が高まっております。

日本のロケット開発研究は、千葉でスタートしました。現在の千葉大学西千葉キャンパスの敷地には、かつて東京大学生産技術研究所がありました。1954年、糸川英夫博士率いる若き研究者が、この地に結集し、ロケットの開発研究が始まったのです。そして直径 1.8 cm、長さ 23 cm、重さ 200 g の我が国初の国産ロケット「ペンシルロケット」が誕生しました。ペンシルロケットは、西千葉から東京都下の国分寺に運ばれ、1955年4月、公開水平発射実験に成功しました。同年6月より、その後の大型ロケットの基礎研究として、2段式のペンシルや無尾翼のペンシル等のロケットが開発され、千葉大学構内にあった、長さ 50m の船舶用実験水槽を改修し、繰り返し水平発射実験が行われました。同年8月には秋田県道川海岸で斜め打上げ発射に成功しました。これらの基礎研究が、日本の大型ロケットへの開発へと繋がっていきます。

敗戦後、自信を喪失した日本で、ロケット開発研究という、壮大で夢あふれる事業が、西千葉を拠点として始まりました。この輝かしい科学の歴史の地を、郷土の誇りとして、多くの方々に伝えたく、広報普及活動を図ってまいりました。さらにこの地の意義を長く後世に継承したく、「千葉は日本のロケット研究発祥の地記念碑」の建立を念願するものです。

ここに、関係者の皆様、そして市民・県民の皆様の絶大なるご支援ご協力をお願いいたします。残り 280 万円を皆様からの寄付で賄います。一口 1,000 円できれば、二口 2,000 円以上のご寄付をお願い申し上げます。郵便局にて、下記の口座にお振込いただけますと幸いです。

振込先：郵便局（ゆうちょ銀行）

口座記号 00240-9 口座番号 83131

加入者名 特定非営利活動法人 ちばサイエンスの会

なお、記念碑は千葉市に寄贈し、西千葉駅周辺に設置をしていただく予定です。本来ならば、一人一人お会いしてお願いすべきところですが、趣旨をお汲み取りいただきたく、ご協力の程よろしく申し上げます。

2015年7月12日

NPO法人ちばサイエンスの会

名誉会長 的川泰宣

理事長 貫井正納

事務局連絡先

電話：047-344-5619

e-mail：chibasaizimukyoku@freeml.com

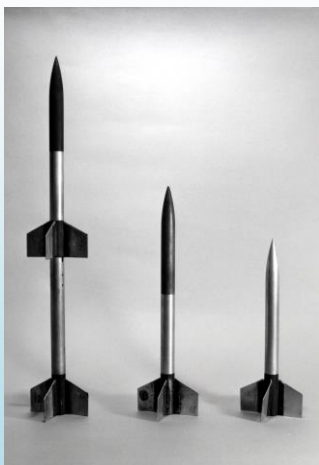
担当：多賀治恵

千葉は日本のロケット

研究発祥の地

ペンシルロケット

日本最初のロケットは、鉛筆のように小さかった。



©JAXA

水平発射実験装置

大学構内の長さ 50m の船舶用実験水槽を改修し、ペンシルロケットの水平発射実験が繰り返された。



©JAXA

ロケット研究は千葉で始まった。

1954年、糸川英夫博士がロケットの研究を始めた。現在の千葉大学西千葉キャンパスの敷地には、かつて東京大学生産技術研究所があり、ここに糸川研究室があった。



©JAXA



ロケット記念碑完成予想図

●記念碑文案

「千葉は日本のロケット研究発祥の地」

現在の千葉大学西千葉キャンパスには、かつて東京大学生産技術研究所がありました。1954年、この地において、生産技術研究所の教官であった糸川英夫博士が中心となり、糸川研究室及び関係研究室が協力しあって、観測ロケットの研究に着手し、日本のロケットの研究開発が始まりました。そして直径 1.8 cm、長さ 23 cm、重さ 200 g の我が国初の国産ロケット「ペンシルロケット」が誕生し、東京都下の国分寺にて、1955年4月、公開水平発射実験が行われました。

同年6月より、その後の大型ロケットの基礎研究として、長さ 30 cm のペンシル 300、2 段式ペンシル等のロケットが作られました。当時の生産技術研究所に所在した長さ 50m の船舶用実験水槽を改修し、水平発射実験が繰り返されました。引き続き、同年8月秋田県道川海岸における斜め打上げ発射でペンシル 300 ロケットの実験は締めくくられましたが、その後もさまざまな燃料開発や燃焼実験が千葉で続けられ、これらの基礎研究が、日本の大型ロケットへの開発へとつながっていきました。

敗戦後、自信を喪失した日本で、糸川英夫博士を中心に、ロケット開発研究という、壮大で夢あふれる事業が、ここ千葉を最初の拠点として始まったのです。千葉はまことに、日本の宇宙ロケット研究の発祥の地とすることができます。この輝かしい科学の歴史的な地を、郷土の誇りとして、後世に継承するため、ここに記念碑を建立しました。

2016年 月 日 千葉市